

財政指標から見る 市の財政状況

今後も健全な財政運営に努めてまいります

平成 25 年度決算における一般会計以外の会計も対象とした各種財政指標のうち、財政構造の弾力性を判断する経常収支比率は、前年度比 1.6 ポイント改善して 84.7%となりました。

また、市の将来を見据えた財政の健全化判断比率のうち、実質公債費比率が 11.7%で 0.3 ポイント減、将来負担比率は 25.1%で 7.9 ポイント減といずれも前年度より改善できました。

今後も徹底した行政改革の推進や組織体制の見直しにより無駄を省き、事業の精査、集中化を図りながら、市民の皆さんへ充実したサービスの提供をしていきます。

市長 宮澤宗弘

決算審査報告

平成 25 年度決算および財政健全化判断比率等について、8 月に監査委員より決算審査報告を受けました。引き続き財政の健全性の確保に努めます。概要は次のとおりです。

1 一般会計・特別会計・公営企業会計決算について

審査に付された各会計歳入歳出決算書およびその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、計数等は関係諸帳簿および証書類と照合した結果、適正であるものと認められました。

また、各基金の運用状況を示す書類の計数は、関係諸帳簿と符合し正確で、運用状況についても適正であると認められました。

予算執行状況は、その目的に沿っておおむね適正に執行されているものと認められました。

2 健全化判断比率等について

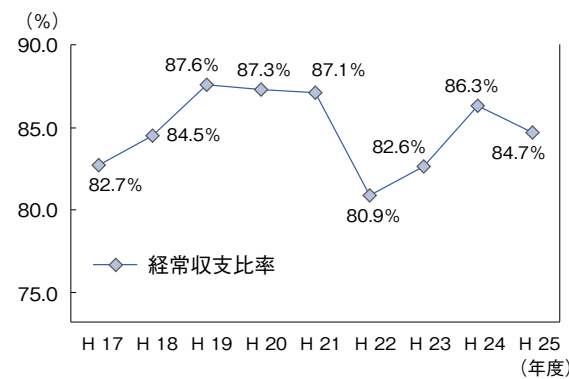
審査に付された健全化判断比率および資金不足比率について、その算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められました。

性が生じると判断される「早期健全化基準」と比較した場合、市の数値は、大きく下回る比率を維持しています。(図 1) また、健全化判断比率の推移を見ても前年度と比較し数値が改善しています。(グラフ 2)

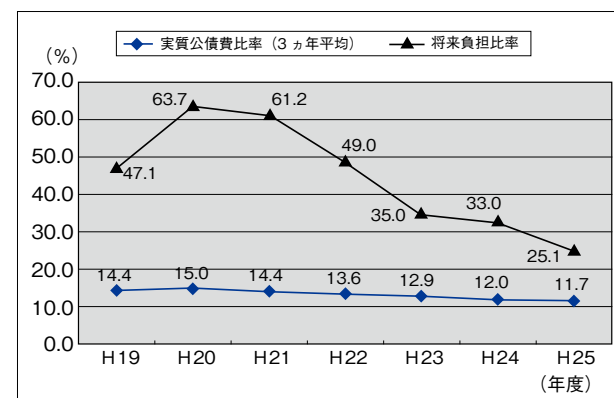
財政状況に各指標等から見ても、現時点で財政運営上の課題等は表れていません。

今後も必要な事業を実施しながら健全な財政運営を行っていきます。

経常収支比率の推移 (グラフ 1)



健全化判断比率の推移 (グラフ 2)



必要な事業を行いながら健全財政を維持

平成 25 年度の決算は、市として必要な行政サービスを提供しながら、新本庁舎や保育園、学校などの公共施設の整備や耐震化等の安全を確保する事業を行ったため、安曇野市となつてから最大の額となりました。

市の財政指標のうち、普通会計の柔軟性を示す指標である経常収支比率は、前年度比 1.6 ポイント改善して 84.7 パーセントになりました。(グラフ 1)

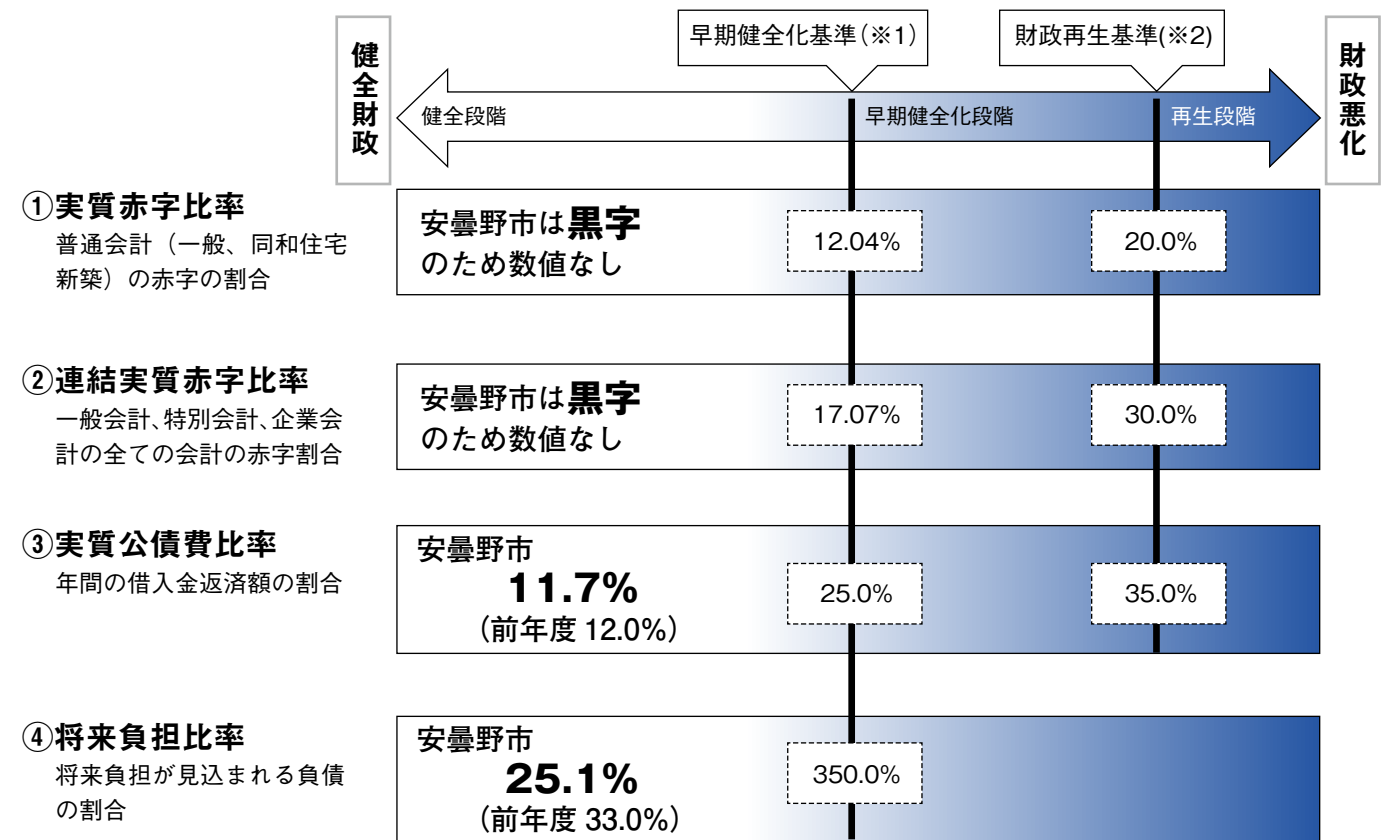
また、自治体の財政状況の健全性を計る指標として次の①～④に示した「健全化判断比率」があります。

① 実質赤字比率
② 連結実質赤字比率
③ 実質公債費比率
④ 将来負担比率

このうち収支が赤字となったときに算出される「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」については、市では、黒字決算を続けており、この指標を算定し始めてから赤字となったことはありません。

また、借入金の返済等の割合を示す「実質公債費比率」「将来負担比率」について財政の健全性が損なわれる危険

財政の健全化判断比率 (図 1)



(※ 1) 早期健全化基準を 1 項目でも上回った場合は、改善に係る個別の事項について、外部監査を受けなければなりません。

(※ 2) 財政再生基準を 1 項目でも上回った場合は、議会の議決を経て財政再生計画を定め、総務大臣の同意を得なければ、一部を除き地方債を借りることができなくなるなど、国の管理下のもと財政の健全化が厳しく求められることになります。